

第9回 春を待つ水鳥たちを見に行こう！

2025.1.26

冬の不忍池は、野鳥観察をこれから始めてみようと思う人には絶好の場所です。はじめて双眼鏡を手にした子ども達がみんなで水辺に目を凝らしてみると、いろいろな鳥を見つけてくれました。冬鳥のオナガガモやキンクロハジロ、オオバン、カワウやユリカモメ、運よくカワセミもみることができました。名前よりも鳥のしぐさやくちばし、脚の色など様々な特徴に気づかせてあげるのも子ども達の観察会ならではの風景です。「カワウはなぜ羽を広げて休んでいるの?」「オオバンが首を前後に振って泳いでいるよ!」。1年間活動してきたボランティアスタッフの方々が一緒にいてくれるおかげで、子ども達ものびのびと気づいたことを話し、観察を楽しんでいるのが印象的です。これからも四季を通じて、不忍池や上野公園の多様な自然の変化に気づいてほしいものです。

最後にプレゼントされた手作りバードコールを使って、これからも子ども達が身近な鳥や自然と、「遊び」、「学び」、「伝え」、そして「守って」くれるきっかけになってくれれば幸いです。

講師 小野紀之



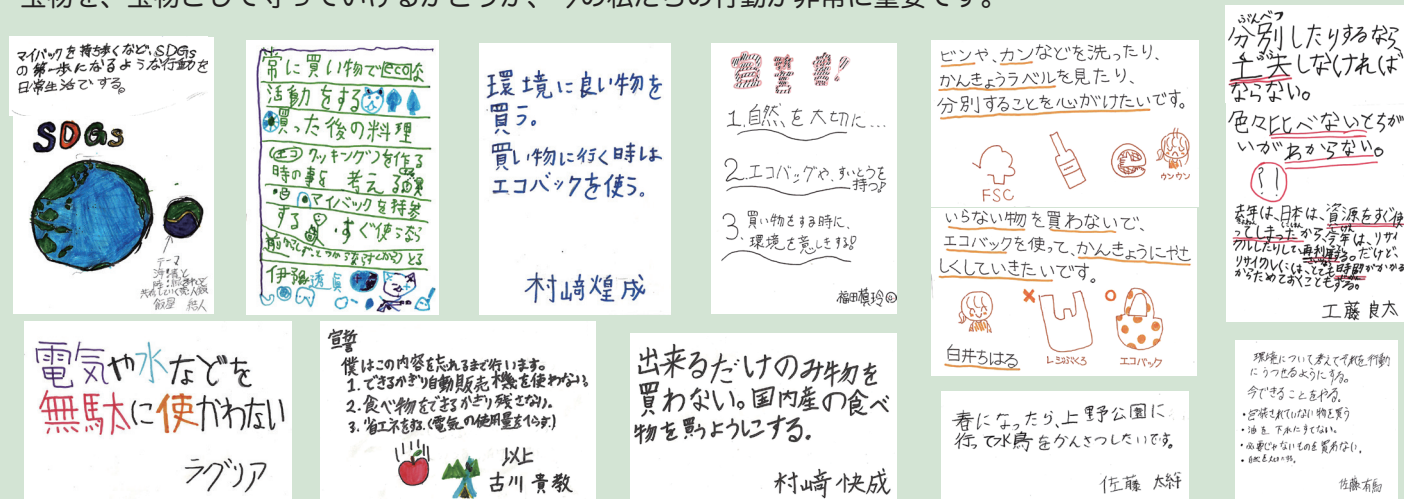
第10回 さあ、始めよう！私たちにできること

2025.2.16

10回目は終了式です。これまでの活動を記録した写真を見て体験を振り返りました。自分の感想と、一緒に活動した友だちの感想を話し合いみんなで共有しました。

今期も比較的、会話をする時間を多く取りました。問題に対してそれぞれの考え方があったと思います。自分の考えをしっかりと持つことで、人の意見を聞いたときに話し合いが生まれてきます。これからの社会の主人公として自分で考え行動する人になって欲しいと願っています。今日書いた、未来への約束を果たせるように進んでいってください。

宝物を、宝物として守っていけるかどうか、今の私たちの行動が非常に重要です。



第25期 こども環境委員会メンバー（リーダー認定証・修了証取得者）

佐藤 太絆（台東育英小）	佐藤 有馬（御徒町台東中）	八鍬 成朗（富士小）	伊豫 透眞（蔵前小）
古川 貴教（忍岡中）	村崎 快成（金曽木小）	Lagria Xavier Benedict（柏葉中）	
工藤 良太（東泉小）	福田 楨玲（桜橋中）	白井 ちはる（金亀小）	飯星 結人（金亀小）
村崎 煌成（柏葉中）	松野 博希（金曽木小）		

こども環境委員会ボランティアスタッフ

碓水州恵	碓水成人	熊谷節子
坂下 誠	善財裕美	辻本利雄
渡 龍大（大学生）		

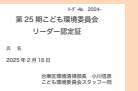
2024年度台東区こども環境委員会活動報告書

編集：こども環境委員会ボランティアスタッフ
発行：台東区環境清掃部環境ふれあい館

※こども環境委員会のプログラムは地域の学び推進機構が運営する学びのポイントラリーに登録しています。

発行日 2025年6月15日
台東区環境清掃部環境ふれあい館・こども環境委員会ボランティアスタッフ

第25期 こども環境委員会活動報告書



2024年度「第25期こども環境委員会」は小学校5年生～中学3年生23名から応募がありました。受入学年を変更して2年目ですが、中学生の参加者の増加や外国籍の生徒の参加もありました。

全10回のプログラムの内、7回以上参加した6人にはこども環境委員会「リーダー認定証」、5回以上参加した7人には「修了証」が授与されました。熱心な参加は、子どもたちにとって地球環境の変化が大きな関心の的になっていることの証左であり、現在の社会をつくってきた大人として胸が痛む瞬間でもありました。

参加者は、地球環境や地球上の生き物たちとのつながり、人との関わりなどを学び、いろいろなことを想像し、自分なりに考えながら1年間のプログラムを体験してきました。知って、考えて、行動する、その思いの一つひとつを大切に育て、つなげていく手助けができていれば大変嬉しいです。

時代の不透明感が更に強くなり、大人も様々な判断に迷うことが増えてきています。常にスタッフそれぞれも初心に戻って地球の声に耳を澄ませると共に、見えなくてもあるものを感じ、考えていく力を養い、一つひとつ活動を積み重ねていきたいと思います。

第1回 オリエンテーション 「私たちの未来は？」

2022.6.19



今期は小学5年生から中学3年生まで23人でのスタートとなりました。

新型コロナウイルスの影響を受けた3年間を経た今年の参加者たちには、少し落ち着きを取り戻したかな？と感じました。第1回目の目的は、初めて出会う人たちとコミュニケーションを取る事、自分自身のことや、まわりのことを知る事、たった一つの地球の中が今どのような状況にあるかを大きな視点でとらえる事、そして自分に何かできることは無いか？と気づくことです。初対面の参加者同士の緊張をほぐすためにアイスブレイクのゲームから始まり、環境漫画を含んだスライドを見ながら、自分たちの生活と地球の現状について考えました。以下は1回目が終わった後の参加者の振り返りシートに記された言葉の数々を抜粋したものです。

「最初は行きたくなかったです、やっぱり楽しかったので毎回行きたいと思います」「まだ6月なのに1年間の資源を使っているということは知らなかったし、使い過ぎだと思った」「地球にはたくさん問題があることがわかった。自分も取り組めることがたくさんありそう。SDGsについてもっと知りたい」「今日初めてだったから緊張したけど、すごく楽しかった。今地球がどんなことになっているのかも分かりました。これからの回でも集中してやったり、これから何をするのか考えたりもしたいです」「自分たちが地球温暖化を進めているということが判った。残りの9回も自然について知りたい」「自然に良いことを振り返ることが出来た。これからも考えていきたい」「少しずつ重ねれば環境問題も解決できることが判った」参加者たちの振り返りにあるように、第1回の目的を良く理解してくれたようです。これからの1年間で、スタッフの私たちが彼らに何を伝えられるか、彼らがどのように変わっていくのか、楽しみです。

第2回 使用済み食用油で石けんづくり

2022.7.17



今回はリサイクルに挑戦です。揚げ物など料理で使った油はその後の料理の中で徐々に使い切ってしまうことが一番良いのですが、それでも使い切れずに残ってしまった食用油(廃油)を原料にして石けんを作りました。作り方は苛性ソーダとお湯と廃油を混ぜるだけ。簡単に見えますが、リサイクルって実は時間も手間もかかり結構大変なことがわかりました。また、廃油のリサイクルは水を汚さない行動であることもわかりました。できあがった石けんは「環境ふれあい館まつり」など区内のイベントで来場者に配布します。添付するメッセージカードも作りました。後半は、環境ふれあい館全体の見学と、前面道路での打ち水体験です。屋上にはソーラーパネルや太陽熱温水器がありました。屋上に降った雨水は地下に貯めトイレ用水の一部で利用されています。常設の資源回収拠点もあって、環境のことを考えて私たちにもできる行動を色々教えてくれる施設だということを知りました。打ち水にはふれあい館前にある精華公園ビオトープの井戸水を使いました。ボランティアスタッフに「ひしゃく」での水のまき方を教わり全員で取り組みました。まき終わった後の道路上で涼しさの体験もしました。「思っていたよりもずっと涼しくて驚いた」との感想が多くあり「気化熱」を実体験する機会になったと思います。

